

令和3年度

政策提言書

白鷹町議会

令和3年度 政策提言

人口減少、少子高齢化、新型コロナウイルス感染症対策等への対応策が求められる中、第6次総合計画に基づき、「人、そして地域がつながり 輝き続ける潤いのまちづくり」の実現に向け、併せて「まち・ひと・しごと創生」に邁進していく必要があります。また、現在、新型コロナウイルス感染状況は落ち着いてきていますが、今後懸念される感染の第6波への備えや、新型コロナウイルスワクチンの3回目接種への対応について万全を期す必要があります。さらに、新型コロナウイルス感染症が社会経済活動へ大きな影響をもたらしたことから、迅速かつ着実な回復が求められます。

白鷹町議会として、令和2年度の決算審議や昨今の所管事務調査等を踏まえ、次の通り政策提言します。

急激な人口減少に歯止めをかけ、安全・安心のまちづくり、魅力あるまちづくりについては特に、荒砥高校の存続、地域コミュニティの強化、西廻り幹線道路の早期着工、国道348号の再整備、移住・定住の推進、森林・林業再生のための緑の循環システムの構築等については、これまで同様推進されるよう提言し、加えて、本年度は、新型コロナウイルス感染症による影響が大きい社会経済活動の建て直しや、喫緊の解決・対応が課題となっている点に特化して提言します。そして、本提言が来年度予算に具体的に反映されるよう望みます。

令和3年11月25日

白鷹町長 佐藤 誠 七 殿

白鷹町議会議長 今野 正 明

1. 地域活性化に向けた取り組みへの支援について

新型コロナウイルス感染症の長期化により、事業や活動が思うようにできず地域コミュニティの希薄化が心配される。今後、各地区コミュニティセンターを拠点とした地域活性化に向けた取り組みに対し、地区の要望を聴きながら積極的な支援を行うこと。

2. 健康と福祉の里構想の多角的検討について

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種に際しては町立病院と健康福祉センターの重要性を再認識した。現在健康と福祉の里構想で検討されている町立病院と健康福祉センターが、将来にわたり町民の皆さんの安全・安心と健康維持・増進の拠り所としての機能を持ち合わせた施設となるよう多角的に検討すること。

3. ICT利活用の推進について

デジタル化社会の進展に伴い、ICTの利活用が様々な分野において今後益々進展していくものと思われる。ICT利活用の推進がすべての年代の町民の皆さんにとって利便性の向上につながるような取り組みとなるよう努めること。

4. GIGAスクール構想によるタブレット端末等の活用について

新型コロナウイルス感染症が教育現場を一変させた。GIGAスクール構想によるタブレット端末等の活用が、学校教育と家庭教育の連携を図りながら、児童生徒一人一人に寄り添い、各人の成熟度に合わせたきめ細やかな教育のもと、学力の向上に結び付くよう努めること。

5. 飲食業や観光、宿泊業など事業所への支援について

コロナ禍で飲食業や観光、宿泊業などへの打撃が深刻な中、地域経済への影響も懸念される。また、従業員を抱える事業所の状況などの把握に努め、引き続き支援策を検討すること。

6. 地域資源を活用した観光のあり方について

これからも日常生活の中で新型コロナウイルスへの感染の不安が常態化するのではないかと思料される。観光客のニーズは、自分たちだけでのんびりできる、コロナショックによるストレスを感じない、小単位で三密を回避することができるなどを満たすものになると想定される。地域資源を活かした今後の観光のあり方について、様々な観点で多くの方のご意見等を伺いながら検討すること。

7. 来年以降の米作付け支援について

新型コロナウイルスの感染拡大で業務用米などの需要が落ち込み、在庫量が適正水準を大きく超過していることにより、米価が下落している。米生産者の大幅な減収が避けられない。今後、コロナ禍が落ち着いたとしても、業務用米などの需要がどれだけ回復するかは見通せない。生産者が来年以降も作付けを継続するための資金繰りの支援などに関し、県やJAなどに働きかけるなど必要な対策を行うこと。また、今後において米の消費拡大についても対応策を検討すること。

8. 鳥獣被害対策について

近年、当町においても野生鳥獣、特にイノシシによる農作物被害が増加傾向にある。また、サルやニホンシカも見受けられ、更なる被害が想定される。クマに関しては、学校、人家近くまで現れ不安を持たれている。一方、捕獲の担い手である狩猟者の高齢化が当町においても進んでいる状況であり、鳥獣被害対策実施隊員の確保に向けた対応策や捕獲後の対処等を検討すること。併せて、人家の近くにまで現れているクマから、子どもやお年寄りを守る対応を講ずること。